



平成24年度

全学教育科目
高年次履修のための手引き

—授業時間割・授業概要等—

基幹教育院

目次

I 全学教育科目の高年次履修について

- | | |
|------------------|---|
| 1. 全学教育と高年次履修 | 1 |
| 2. 高年次履修対象科目 | 1 |
| 3. 高年次教養科目の目的と目標 | 1 |

II 全学教育の学年暦・履修登録等スケジュール・授業日程

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 全学教育学年暦 | 3 |
| 2. 全学教育科目の履修登録・試験・成績スケジュール | 4 |
| 3. 全学教育授業日程 | 5 |

III 高年次履修対象科目授業時間割

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 高年次履修全学教育科目時間割 | 7 |
| 2. 総合科目（留学生センター開講科目）時間割 | 9 |

IV 高年次履修対象科目授業概要

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 高年次教養科目 | 10 |
| 1-a 課題科目 | 10 |
| 1-b 主題科目 | 12 |
| 1-c 社会連携科目 | 16 |
| 2. 総合科目（留学生センター開講科目） | 17 |
| 3. 言語文化自由選択科目 | 20 |
| 4. 健康・スポーツ科学科目 | 27 |

V 科目の読替について（平成 17 年度以前入学者対象）

※「高年次履修のための手引き」とあわせて、「シラバス」で各授業の具体的な情報を参照し、何をどのように学ぶかを理解するようにしてください。

シラバス <http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>

I. 全学教育科目の高年次履修について

1. 全学教育と高年次履修

全学教育は、本学の総合大学としての特性を教育機能に生かし、優れた学部教育を実施するために設けられたものです。すなわち、それぞれの学部がその学部独自の専攻教育を行うのとは別に、本学が持っているさまざまな分野の専門研究者の教育能力を総合的に生かすことによって質の高い教養教育を実施し、それによって優れた人材を育成することを趣旨として設けられました。全学教育科目は、専攻教育との有機的連関のもとで、4年（6年）一貫の視点にたって編成されることになっています。そのため、全学教育科目は低年次だけでなく高年次においても履修することができるようになっています。

2. 高年次履修対象科目

(1) 対象科目

主に3年次以降を対象とする高年次履修対象科目には次の科目群があり、箱崎・病院・大橋・伊都の各地区で開講されます。

- ①高年次教養科目
 - 課題科目
 - 主題科目
 - 社会連携科目
- ②総合科目（留学生センター開講科目）
- ③言語文化自由選択科目
- ④健康・スポーツ科学科目

(2) 時間割

高年次履修対象科目の科目名・教員名・曜日時限・開講地区・教室等については、7～9ページの時間割等を参照してください。

言語文化自由選択科目の時間割は、伊都地区公用掲示板及び各学部の掲示板上に掲示します。

(3) 修得単位

高年次履修対象科目で修得した単位は、総合選択履修方式の単位に充てることができます。

なお、1・2年次（低年次）に、各地区で開講される高年次履修対象科目を履修することはできません。

3. 高年次教養科目の目的と目標

学部専攻教育を主体とする高年次の修学課程において、以下のことを目的とした優れた人材の育成をおこなうために高年次教養科目を提供し、総合選択履修方式による履修の推進を図ります。

- (a) 現代社会の直面する課題を認識しその解決に貢献する社会性を修得する
- (b) 横断的な学問領域への理解を深め総合的な判断力をもつ人間性を修得する
- (c) 専門性に関連した周辺学問領域に関する理解を深め質の高い専門性を修得する

さまざまな分野の専門研究者の教育能力を総合的に生かすことによって、質の高い教養教育を実施し、それによって優れた人材を育成することを目的としています。

(イ) 課題科目

グローバル化が進む現代社会において直面する様々な課題にどのようなものがあり、それらを解決するためにどのような実践的取組が行われているかについての総合的な理解を修得することを目標としています。

課題科目Ⅰ（地域研究） / 課題科目Ⅱ（人間と社会） / 課題科目Ⅲ（先端科学技術）
課題科目Ⅳ（資源・エネルギー） / 課題科目Ⅴ（環境・生命）

(ロ) 主題科目

現代社会における人文科学・社会科学・自然科学分野の抱える諸問題について、テーマ毎に総合的な理解を修得することを目標としています。

文系主題科目Ⅰ（哲学と思想） / 文系主題科目Ⅱ（文学と芸術） / 文系主題科目Ⅲ（地域と文化）
文系主題科目Ⅳ（歴史と文化） / 文系主題科目Ⅴ（教育と心理） / 文系主題科目Ⅵ（政治と法）
文系主題科目Ⅶ（経済と社会）

理系主題科目Ⅰ（生物科学） / 理系主題科目Ⅱ（数学） / 理系主題科目Ⅲ（物理学）
理系主題科目Ⅳ（化学） / 理系主題科目Ⅴ（地球科学） / 理系主題科目Ⅵ（図形科学）
理系主題科目Ⅶ（情報科学） / 理系主題科目Ⅷ（健康科学）

(ハ) 社会連携科目

社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立させることを目標としています。

ボランティア活動Ⅰ / ボランティア活動Ⅱ / インターンシップⅠ / インターンシップⅡ

Ⅱ. 全学教育の学年暦・履修登録等スケジュール・授業日程

1. 全学教育学年暦（平成24年度）

行 事	期 日	備 考
前 期 開 始	4月1日(日)	
春 季 休 業	4月1日(日)～4月8日(日)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
学 生 定 期 健 康 診 断	4月2日(月), 4月3日(火), 4月6日(金) 4月10日(火), 4月11日(水) 4月13日(金), 4月17日(火), 4月19日(木)	1年生(全員)の実施日 2年生(全員)の実施日
入 学 式	4月4日(水)	
新入生オリエンテーション	4月4日(水), 4月5日(木), 4月7日(土)	
前 期 授 業 開 始	4月9日(月)	
本 学 記 念 日	5月11日(金)	
創立百周年記念関連行事	5月12日(土)～5月14日(月)	
創立百周年記念休業日	5月14日(月)	九州大学学部通則第6条第2項の規定による休業日
前 期 授 業 終 了	7月27日(金)	
前 期 定 期 試 験	7月30日(月)～8月3日(金)	
前期定期試験に係る追試験等	8月6日(月)～8月10日(金)	
夏 季 休 業	8月11日(土)～9月30日(日)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
前 期 終 了	9月30日(日)	
後 期 開 始	10月1日(月)	
後 期 授 業 開 始	10月1日(月)	
体 育 祭	10月6日(土)	
九 大 祭	11月23日(金), 11月26日(月)	九州大学学部通則第6条第2項の規定による休業日
冬 季 休 業	12月26日(水)～1月6日(日)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
冬季休業後の授業開始	1月7日(月)	
大学入試センター試験	1月19日(土), 20日(日)	
後 期 授 業 終 了	2月1日(金)	
後 期 定 期 試 験	2月4日(月)～2月8日(金)	
後期定期試験に係る追試験等	2月12日(火)～2月18日(月)	
一般入試（前期日程）	2月25日(月), 26日(火)	
一般入試（後期日程）	3月12日(火)	
学 位 記 授 与 式	3月26日(火)	
後 期 終 了	3月31日(日)	

(注) 九大祭については、休業日を表示したもので、期間を示すものではない。

2. 全学教育科目の履修登録・試験・成績スケジュール（予定）

【第1週目】	前期 4月9日(月)～4月13日(金) 後期 10月1日(月)～10月5日(金)	受講許可を受ける	受講科目を選択して、授業担当教員に受講許可を受ける。
【第2週目】	前期 4月16日(月)～4月20日(金) 後期 10月9日(火)～10月15日(月)	履修登録	学生用Webシステムで履修登録（期間厳守）。
			期間外の履修登録不可。
【第4週目】	前期 5月7日(月)～5月11日(金) 後期 10月22日(月)～10月26日(金)	履修確認・修正	学生用Webシステムで履修登録内容を確認し、変更があれば学生用Webシステムで修正。
			期間外の履修変更不可。
【第6週目】	前期 5月21日(月)～5月25日(金) 後期 11月5日(月)～11月9日(金)	最終確認	履修登録内容を確認し、変更があれば窓口に申請
			<u>履修登録確定。これ以後の変更は原則不可。</u>
【第7週目】	前期 5月28日(月)～6月1日(金) 後期 11月12日(月)～11月16日(金)	履修中止	履修中止する科目（選択科目又は選択必修科目に限る）があれば、窓口に申請。
		教場試験	定期試験が行われず授業中の告知により実施される場合がある。 試験日・実施場所を正しく把握。
【第16週目】	前期 7月30日(月)～8月3日(金) 後期 2月4日(月)～2月8日(金)	定期試験	掲示で受験上の注意事項、実施教室を確認して受験。
【第17週目】	前期 8月6日(月)～8月10日(金) 後期 2月12日(火)～2月18日(月)	追試験・再調査	定期試験の追試験は、病気や忌引により受験できなかった場合に申請により受験可能。証明書の提出必要。 学習到達度再調査は教員の判断により必要に応じて実施。その対象者等は掲示で通知。
	前期 8月下旬～9月上旬 後期 2月下旬～3月上旬	成績確認	随時、学生用Webシステムで成績確認。 成績評価の問い合わせは、期間内のみ。

※1 日程は変更される場合がありますので、掲示でも確認してください。

※2 履修登録等の詳細は掲示によりお知らせしますので、伊都地区及び各学部の掲示板に注意してください。

※3 専攻教育科目の履修登録・試験等については、各学部（学科）の指示に従ってください。

《履修登録の注意事項》

- 学生用Webシステムで履修登録する際は、曜日・時限・科目名・担当教員を確認してください。
- 登録漏れや登録ミス科目は、たとえ授業に出席し、かつ試験を受け十分に学習したという実績があっても、単位は認定されません。登録漏れや登録ミスがないように履修確認・修正期間及び最終確認期間に必ず登録内容を確認してください。
- 履修登録するのみで授業に出席していないなどの場合は、履修放棄とみなされ、平成19年度以降入学者については「F（不合格）」の評価になり、GPAに反映されます。
- 「履修中止」制度を利用できるのはGPAが適用される平成19年度以降の入学者です。
履修中止期間終了後の履修中止は認めません。ただし、修学途中で、病気や特別な事情等で修学が継続できない場合には修学指導教員または相談員からの申請により、履修中止を認める制度があります。

3. 全学教育 授業日程

平成24年度【前期】 全学教育 授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備 考
								4. 1(日)～4.8(日) 春季休業 4. 2(月)～4.19(木) 健康診断 【うち1年生該当日 4. 2(月), 4. 3(火), 4. 6(金) 2年生該当日 4.10(火), 4.11(水), 4.13(金) 4.17(火), 4.19(木)】
	2	3	入学式	4	5	6	7	4. 4(水) 入学式 4. 4(水), 5(木), 7(土) 新入生オリエンテーション 4. 6(金) 大学院入学式 4. 7(土) 既修得単位認定試験
1	9	10	11	12	13	14	15	4.9(月) 前期授業開始
2	16	17	18	19	20	21	22	
3	23	24	25	26	27	28	29	
4	30	5月 1日 月曜分	2	3	4	5	6	5.1(火)は月曜日の授業を行う
5	7	8	9	10	11	12	13	5.11(金) 本学記念日(授業は行う) 5.12(土)～5.14(月) 創立百周年記念関連行事
6	14	15	16	17	18	19	20	5.14(月) 創立百周年記念休業日
7	21	22	23	24	25	26	27	
8	28	29	30	31	6月 1	2	3	
9	4	5	6	7	8	9	10	
10	11	12	13	14	15	16	17	
11	18	19	20	21	22	23	24	
12	25	26	27	28	29	30	7月 1	
13	2	3	4	5	6	7	8	
14	9	10	11	12	13	14	15	
15	16	17	7月 18日 月曜分	19	20	21	22	7.18(水)は月曜日の授業を行う
16	23	24	25	26	27	28	29	7.27(金) 前期授業終了
17	30	31	8月 1	2	3	4	5	7.30(月)～8.3(金) 前期定期試験
18	6	7	8	9	10	11	12	8.6(月)～8.10(金) 追試験・再調査期間
計	17	17	17	17	17			

※専攻教育科目の授業日程については、各学部(学科)の指示に従ってください。

平成24年度【後期】 全学教育 授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備 考
1	10月 1	2	3	4	5	6	7	10. 1(月) 後期授業開始 10. 6(土) 体育祭
2	8	9	10	11	12	13	14	
3	15	16	17	18	19	20	21	
4	22	23	24	25	26	27	28	
5	29	30	31	11月 1	2	3	4	
6	5	6	7	8	9	10	11	
7	12	13	14	15	16	17	18	
8	19	20	21	22	23	24	25	11. 23(金)～11. 26(月) 九大祭 11. 26(月) 九大祭のため休業
9	26	27	28	29	30	12月 1	2	11. 28(水)は月曜日の授業を行う
10	3	4	5	6	7	8	9	
11	10	11	12	13	14	15	16	
12	17	18	19	20	21	22	23	
13	24	25	26	27	28	29	30	12. 26(水)～1. 6(日) 冬季休業 12. 25(火) 授業は行わない
14	31	1月 1	2	3	4	5	6	
15	7	8	9	10	11	12	13	
16	14	15	16	17	18	19	20	1. 15(火)は月曜日の授業を行う 1. 17(木)は金曜日の授業を行う
17	21	22	23	24	25	26	27	1. 18(金) センター試験準備 授業は行わない 1. 19(土), 20(日) センター試験
18	28	29	30	31	2月 1	2	3	2. 1(金) 後期授業終了
19	4	5	6	7	8	9	10	2. 4(月)～2. 8(金) 後期定期試験
20	11	12	13	14	15	16	17	2. 12(火)～2. 18(月) 追試験・再調査期間
21	18							
計	17	17	17	17	17			

- 定期試験期間
- 追試験・再調査期間
- 他の曜日の授業を振り替えて行う日
- その他、休講とする日
- 土曜・日曜・祝日及び本学が定める休業日

※専攻教育科目の授業日程については、各学部（学科）の指示に従ってください。

Ⅲ. 高年次履修対象科目授業時間割

1. 高年次履修全学教育科目時間割

1限=8:40~10:10, 2限=10:30~12:00, 3限=13:00~14:30, 4限=14:50~16:20, 5限=16:40~18:10

【前期】

高年次教養科目

曜日・時限	コード	授業科目名	副題	担当教員	地区	講義室	授業概要掲載ページ
火曜・1限	08	課題科目Ⅰ (地域研究)	E U論基礎—制度と経済	稲富 信博 他	箱崎	文系) 203 講義室	10
	09	文系主題科目Ⅳ (歴史と文化)	気候から見た東アジア史	中島 楽章		文系) 103 講義室	12
	10	文系主題科目Ⅴ (教育と心理)	個人と環境の相互作用としての発達	田嶋 誠一 他		文系) 104 講義室	12
	11	文系主題科目Ⅵ (政治と法)	刑法の主要論点	野澤 充		文系) 202 講義室	12
	12	文系主題科目Ⅶ (経済と社会)	情報技術と経済社会	篠崎 彰彦		文系) 204 講義室	12
	13	理系主題科目Ⅰ (生物科学)	バイオテクノロジー詳論	宮本 敬久 他		農) 4号館102教室	13
	14	理系主題科目Ⅲ (物理学)	自然科学概論	橋本 正章 他		理) 物理第3講義室	13
	15	理系主題科目Ⅴ (地球科学)	海洋学概論	清川 昌一 他		理) 地感第2講義室	14
	16	理系主題科目Ⅷ (健康科学)	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	入江 正洋 他		21世紀交流プラザI 講義室B	15
	17	理系主題科目Ⅱ (数学)	医療統計学	大喜 雅文	病院	総合研究棟105号	13
	18	理系主題科目Ⅳ (化学)	新しい“くすり”への道	植田 正 他		薬) 第3講堂	13
	19	課題科目Ⅲ (先端科学技術)	工学と倫理	中里 公哉	伊都	工) 第4講義室	11
	90	課題科目Ⅳ (資源・エネルギー)	環境調和型社会の構築	橋爪 健一 他		工) 第3講義室	11
	91	理系主題科目Ⅶ (情報科学)	脳情報科学入門	伊良皆 啓治		工) 第2講義室	14
	92	課題科目Ⅴ (環境・生命)	サイバー空間デザイン	牛尼 剛聡	大橋	芸工) 511 講義室	11
	93	課題科目Ⅱ (人間と社会)	会社とは何か、起業するとは何かを学ぼう	姜 益俊 他	箱崎 伊都 大橋 筑紫	旧工学部本館 4番講義室 センター1号館 1308教室 芸) 525 講義室 総理工E棟 101 講義室	10
	94	理系主題科目Ⅲ (物理学)	望遠鏡で見る宇宙環境	藤原 智子 他	箱崎 伊都	21世紀交流プラザI 多目的ホール センター1号館 1302教室	13

健康・スポーツ科学科目

曜日・時限	コード	授業科目名	種目等	担当教員	地区	講義室等	授業概要掲載ページ
火曜・1限	80	身体運動科学実習Ⅲ	総合スポーツ	大柿 哲朗	箱崎	箱崎地区・体育施設	28
	81	身体運動科学実習Ⅳ					28
	82	身体運動科学実習Ⅲ	コミュニケーションスポーツ	杉山 佳生	伊都	伊都地区・体育施設	28
	83	身体運動科学実習Ⅳ					28

授業概要とあわせて、「シラバス」で各授業の詳細情報を確認して授業に臨んでください。

シラバス <http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/>

【後 期】

高年次教養科目

曜日・時限	コード	授業科目名	副題	担当教員	地区	講義室	授業概要掲載ページ	
火曜・1限	04	課題科目Ⅰ (地域研究)	グローバル化とアジア経済	深川 博史 他	箱崎	文系) 203 講義室	10	
	05	文系主題科目Ⅱ (文学と芸術)	日本語の位相	青木 博史		文系) 103 講義室	12	
	06	文系主題科目Ⅴ (教育と心理)	社会生活における対人関係	吉良 安之 他		文系) 104 講義室	12	
	07	文系主題科目Ⅵ (政治と法)	現代中国政治論	李 弘杓		文系) 202 講義室	12	
	08	文系主題科目Ⅶ (経済と社会)	市場と国家の経済思想史	関 源太郎		文系) 204 講義室	13	
	09	理系主題科目Ⅳ (化学)	環境問題と自然科学	吉村 和久 他		理) 化学第2 講義室	14	
	10	理系主題科目Ⅷ (健康科学)	応用健康学	丸山 徹 他		理) 生物第2 講義室	15	
	11	理系主題科目Ⅰ (生物科学)	細胞の複製と発生・分化	佐方 功幸 他		病院	総合研究棟105号	13
	12	課題科目Ⅴ (環境・生命)	日本のランドデザイン	都甲 康至	大橋	芸工) 524 講義室	11	
	13	課題科目Ⅳ (資源・エネルギー)	次世代の低炭素エネルギー	佐々木 一成 他	伊都	工) 第6 講義室	11	
	14	理系主題科目Ⅳ (化学)	化学英語	松野 寿生 他		工) 第5 講義室	14	
	15	理系主題科目Ⅵ (図形科学)	図形情報処理入門	大月 彩香		工) 情報講義室2	14	
	16	理系主題科目Ⅶ (情報科学)	情報科学の世界	古川 浩 他		工) 第4 講義室	14	
	集中講義 ※1	—	課題科目Ⅲ (先端科学技術)	工学と倫理	齊藤 了文		(未定)	11
	火曜・1限	17	課題科目Ⅱ (人間と社会)	日本と世界の課題フォーラム	姜 益俊 他	箱崎	旧工学部本館 4 番講義室	10
						伊都	センター1号館 1308教室	
大橋	芸工) 525 講義室							
筑紫	総理工E棟 101 講義室							
18	理系主題科目Ⅲ (物理学)	望遠鏡で見る宇宙環境	藤原 智子 他	箱崎	21世紀交流プラザ1 多目的ホール	13		
				伊都	センター1号館 1302教室			

※1【集中講義】課題科目Ⅲ (副題: 工学と倫理) の履修登録方法・日程・講義室等については、後日揭示でお知らせします。

高年次教養科目(QREC提供科目) ※2

曜日・時限	コード	授業科目名	副題	担当教員	地区	講義室等	授業概要掲載ページ
集中講義	—	課題科目Ⅰ (地域研究)	アントレプレナーシップ・ファイナンス	東出 浩教	箱崎	(未定)	10
後期前半 金曜・4-5限	—	課題科目Ⅱ (人間と社会)	研究と技術のマネジメント	谷川 徹	箱崎	旧工学部本館 4 番講義室	10
					伊都	センター1号館 1308教室	
					大橋	芸工) 525 講義室	
					筑紫	総理工E棟 101 講義室	
火曜・6-7限 (18:50~22:00)	—	課題科目Ⅲ (先端科学技術)	ビジネスにおける競争優位性	高田 仁	箱崎	(未定)	11
					伊都	センター1号館 1302教室	

※2 高年次教養科目(QREC提供科目) の履修登録方法・日程・講義室等については、後日揭示でお知らせします。

なお、「QREC」は九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センターの略称です。

健康・スポーツ科学科目

曜日・時限	コード	授業科目名	種目等	担当教員	地区	講義室等	授業概要掲載ページ
火曜・1限	80	身体運動科学実習Ⅲ	バドミントン他	杉山 佳生	箱崎	箱崎地区・体育施設	28
	81	身体運動科学実習Ⅳ					28
	82	身体運動科学実習Ⅲ	いろいろなスポーツにチャレンジ	斉藤 篤司	伊都	伊都地区・体育施設	28
	83	身体運動科学実習Ⅳ					28

2. 総合科目（留学生センター開講科目）時間割

以下の科目は、留学生センターが外国人短期留学コースで開講する科目ですが、教室定員の範囲内で全学教育科目としての履修が認められています。

授業の教室、時間割変更等については、各学部及び全学教育教務係の掲示板により別途お知らせしますので、掲示に注意してください。

【前期】

◎ JTW (Japan in Today's World) 開講科目

- ・次の科目は総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として履修できます。全学部の全学年が対象です。
- ・授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。各授業の概要は、17～19ページを参照してください。
- ・履修登録手続が他の全学教育科目とは異なりますので、履修にあたっては17ページを参照してください。
- ・授業は、箱崎地区の留学生センターで行われます。

曜日・時限	コード	授業科目名	担当教員	講義室
火曜・2限	90	近代日本の社会経済史2	今井亮一	留セ403
火曜・3限	90	日本の文化的発展	ポラック	留セ403
火曜・3限	91	国際金融入門	儲梅芬	留セ404
水曜・2限	90	日本と東アジア関係論	李弘杓	留セ403
水曜・3限	90	日本における教養と教育	ポラック	留セ403
水曜・3限	91	変貌する日本経済	今井亮一	留セ404
木曜・2限	90	東アジアの巡礼の伝統	ステイラー	留セ403
木曜・2限	91	福岡の物産：博多の味	クロス	留セ404
木曜・3限	90	日本語の輪郭	岡崎智己	留セ403
木曜・3限	91	現代の日本文学	クロス	留セ404
金曜・2限	90	黒澤明の日本	ナカムラ	留セ403
金曜・2限	91	現代日本政治入門	蓮見二郎	留セ404
金曜・3限	90	現代日本と大衆文化	ナカムラ	留セ403

◎ ATW (Asia in Today's World) 開講科目

- ・次の科目は、留学生センターが外国人短期留学コースの一環として夏季集中で実施する九州大学サマーコースで開講される科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として履修できます。全学部の全学年が対象です。
- ・授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。各授業の概要は19ページを参照してください。
- ・受講生の募集及び履修登録方法等の詳細については、後日掲示によりお知らせします。

曜日・時限	コード	授業科目名	担当教員	講義室
夏季集中	-	転換期の日本政治社会	バンオーベルベケ	(未定)
夏季集中	-	日本文学における「死」の考察	ピングトン	
夏季集中	-	現代日本とグローバル社会	バージェス	
夏季集中	-	アジアの中の日本	リム・タイウェイ	

【後期】

◎ JTW (Japan in Today's World) 開講科目

※後期の授業時間割は、後期開始前までに掲示によりお知らせします。

- ・JTW開講科目は、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として履修できます。全学部の全学年が対象です。
- ・授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。授業内容が確定次第、国際部のJTWホームページ (<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jtw/courses/courses.htm>) に掲載されます。
- ・履修登録手続が他の全学教育科目とは異なりますので、履修にあたっては17ページを参照してください。

IV. 高年次履修対象科目授業概要

1. 高年次教養科目

1-a. 課題科目（2単位）（平成17年度以前入学者：個別教養科目の読替科目）

21世紀の人類が直面する現代社会が抱える諸課題について、この分野の最前線で活躍する講師から専門的かつ多様な視点に基づく問題提起を受けます。これによって問題点を正しく把握しその解決について議論することを主目的とし、課題の総合的な認識と理解を深めます。

※ 授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

◎印はオーガナイザー

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限)	対象 学年	備 考 (テキスト)	
			開講地区			
課 題 科 目 I	EU論基礎—制度と経済	◎稲富信博 八谷まち子	EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から27カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことから政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU進展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、前半において欧州経済の歴史的な発展を、後半にはEU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得することができよう。こうした知識は、アジアの統合を考える際にも役立つことになろう。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	本講義は、EUIJの学部EUディプロマコースの入門科目(必修)の中でも唯一の箱崎キャンパス開講科目です。同コースに登録している学生は積極的に受講してください。テキストは用いず、配布資料に基づき進める。参考図書については、講義の進行に沿って提示する。全体を通した参考図書：Susan Senior Nello(2009), <i>The European Union- Economics, Policies and History, 2nd ed.</i> McGraw Hill.
	グローバル化とアジア経済	◎深川博史 清水一史 堀井伸浩	グローバル化下の東アジアについて、九州に近い韓国を中心に、アセアン及び中国の経済対応を概説する。地域ごとに経済トピックをとりあげて、3地域の経済対応の特徴を示す。例えば、韓国の農産物市場開放、中国のエネルギー需要への対応、アセアンの域内経済協力など。担当教員3名はそれぞれ、韓国、アセアン、中国経済に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域経済の問題点や発展の方向性を把握している。東アジア経済について、グローバル化という大枠の視点を示しつつ、各地域の社会経済事情までを射程に入れた講義を予定している。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	
	アントレプレナーシップ・ファイナンス	東出浩教	ベンチャーキャピタル(VC)を中心とする資金の出し手の投資行動を理解し資金調達法を習得する。その前提としてVCが運用する投資ファンドの設立・運用方法を習得する。座学、ケース教材を用いた演習。集中講義各授業回でのテーマに沿った指定の教科書、資料やケース(事例集)を課題として課す。その上で講義に出席し、討論に参加すること。またケース教材を用いその事例から抽出できる理論面の検討をクラスで行う。	後期(土曜 時限未定) 箱崎地区	全学部 3年以上	【QREC提供科目】 リチャード・L・スミス、ジャネット・K・スミス『アントレプレナー・ファイナンス ～ベンチャー企業の価値評価とディーラー・ストラクチャー』(中央経済社) マイケル・J・コーバー『プライベート・エクイティ～価値創造の投資手法』(東洋経済新報社) 授業実施日、履修登録等の詳細は掲示でお知らせします。
課 題 科 目 II	会社とは何か、起業するとは何かを学ぼう	姜 益 俊 他	九大生の90%が企業に就職するという現実を踏まえて、会社やビジネスの本質について概観することを目的とする。遠隔授業を用いて、日本およびシリコンバレーより多様な講師陣が、会社の形態の概説、新事業開発、研究開発、生産、マーケティング、販売という縦糸を支える人事、経理、財務、総務などの横糸、そしてそれを統括するマネジメントの各立場から会社とは何かの経験も加えて論じていただく。また起業するとはどういうことか、ベンチャーキャピタルの役割、起業経験者による苦労と楽しさなどの話をさせていただく。	前期(火1) 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	全学部 3年以上	毎回の講義の後の質疑応答への積極的な参加を望む。テキスト：各講義のなかで参考図書を紹介することがある。
	日本と世界の課題フォーラム	姜 益 俊 他	国内外の重要な社会問題を選び、専門家の総括を聞いた後、学生が自らグループを作り、調査し発表する。その後、その課題につき、各個人の意見を表明する機会を作る。このような、答えがひとつでない問題に対して、自分で考えや意見として答えを出し、表明する機会を作ることによって、社会に出て自立した人格をもてるように訓練する。課題の例としては、「TPP(Trans Pacific Partnership)をどう理解するか」、「日本のエネルギー戦略をどうするか」、「原子力発電をどうするか」、などが考えられる。	後期(火1) 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	全学部 3年以上	

IV. 高年次履修対象科目授業概要

課題科目
(個別教養科目の読替科目)

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日・時間)	対象 学年	備 考 (テキスト)
			開講地区		
課題科目Ⅱ 研究と技術のマネジメント	谷川 徹他	いわゆる技術マネジメント (MOT) の総合的かつ基礎的講義です。研究や技術はそれ自体では価値がありません。具体的な製品やサービスとなり社会で生かされて初めて意味を持ちます。インターネットの普及による世界の大きな環境変化や、社会のニーズの多様化などを踏まえ、様々な角度から研究や技術のあり方、活用の仕方、研究者の生き方、そしてビジネス界で通用する人材像などを検討し、大学で学ぶことの意義や将来の進路を考えるヒントを提供します。実業界等各界で活躍する複数の講師が毎回専門分野について講義し、その後特定のテーマの下受講生によるグループ討議を行う等、双方向のクラス運営を行います。理系学生だけでなく、文系学生にも有用な講義です。	後期前半 (金 4・5) 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	全学部 3年以上	【QREC提供科目】 講師や履修者相互と双方向のディスカッションを行います。積極的な発言を期待していません。授業実施日、履修登録等の詳細は掲示でお知らせします。
課題科目Ⅲ 工学と倫理	中里 公哉	技術が一般社会、特に公衆及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を学習させ、国際的に通用する資質を身につけることを目的とする。したがって、具体的に授業は、技術者の倫理が問題にされる事例を多く挙げ、講師の実社会、特に航空界における経験をもとに説明を加えながら講義を進める。内容的には航空宇宙関係を主とするが、その他の分野で参考となる技術者倫理、企業倫理についても学習させる。	前期 (火 1) 伊都地区	全学部 3年以上	
	齊藤了文	工学分野においてものづくりを行うためのエンジニアの倫理的責任について、事例に基づいて議論する。	後期集中 伊都地区	全学部 3年以上	授業実施日、履修登録等の詳細は掲示でお知らせします。
ビジネスにおける競争優位性	高田 仁	企業が高いレベルの業績を安定的・継続的に上げるためには、他社には真似の出来ない自社ならではの価値を提供するための中核的な能力を形成し、競争優位性を確保しなければならない。その能力は、ブランドやコア技術、知的財産、行動様式など多面的である。本講義は、ビジネスにおける競争優位性の形成やマネジメント手法にかんし、特にMOT (技術経営) の観点から理論と実例を交えて学ぶ。	後期 (火 6・7) 18:50~22:00 箱崎地区 伊都地区	全学部 3年以上	【QREC提供科目】 授業実施日、履修登録等の詳細は掲示でお知らせします。
環境調和型社会の構築	◎橋爪健一 松永信博 経塚雄策 高橋良潤 谷本多潤 波木俊一 青木貴之 浜中秀一 島田紀郎 半田博士 田島剛 吉武剛彦	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。21世紀において、地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。講義は総合理工学研究院の教員がオムニバス形式で行う。	前期 (火 1) 伊都地区	全学部 3年以上	
課題科目Ⅳ 次世代の低炭素エネルギー	◎佐々木一成 高崎講二 高塚雄策 経塚雄策 谷本多潤 田島博士 吉武剛彦 大橋健一 大屋裕二 大屋裕二 岡重隆 光林三灯	地球環境問題や福島での原子力発電所事故も踏まえ、既存の大規模発電の高効率化と並んで、分散型、オンサイト型、携帯型、自然エネルギー利用などの地球環境適応型の革新的な低炭素エネルギー技術により、電気を高効率に生み出したリ変換したり省エネルギーを可能にすることが、不可欠になってきている。本講義では、このような低炭素エネルギー技術を理解するための基礎科学と最先端の次世代技術開発の現状を、実際に研究に携わっている教員が概説し、将来の社会へのインパクトについて考察する。また、主幹教授制度を活用して、招へい外国人研究者による英語での講義も実施する。	後期 (火 1) 伊都地区	全学部 3年以上	テキスト：特になし (プリント配布で対応)
課題科目Ⅴ サイバー空間デザイン	牛尼剛聡	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	前期 (火 1) 大橋地区	全学部 3年以上	
日本のグランドデザイン	都甲康至	1990年にバブル経済が崩壊し、その後失われた20年を経た現在、2011年3月11日に発生した東日本大震災・福島原子力発電所事故からの復興、エネルギー問題、少子高齢化、人口減少社会、TPP問題等、多くの問題が山積している。世界においても9.11テロと地域紛争、地球環境問題、食料・水不足、金融危機等、社会・経済構造が転換期を迎え新たなパラダイムシフトが起ころうとしている。本授業では、これらの課題を通じて日本の進むべき道と国際社会における役割等について論議し、学生が主体的に日本のグランドデザインをまとめていく。	後期 (火 1) 大橋地区	全学部 3年以上	常日頃から日本や国際社会に関する問題意識を持ち、その根底にある因と関係性について考え抜く力を養うこと。そして、日本や国際社会のあるべき姿を考え、的確で簡潔な言葉や図等で表現できる力を養うこと。 テキスト：フォーラム 21・梅下村塾 23期生『「ニッポン・プライド」復活への道』(丸善プラネット株式会社)

1-b. 主題科目 (2単位)

(平成17年度以前入学者：個別教養科目，情報処理科目Ⅱの読替科目)

※ 授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限)	対象学年	備 考 (テキスト)	
			開講地区			
文系主題科目Ⅱ	日本語の位相	青木博史	地域・性別・年齢・職業・階級など，様々な集団に基づく言語の違いを「位相」という。言語における多面性・多様性を知り，観察・記述する方法を身につけることを目標とする。扱う言語は日本語とし，現代語から古典語まで幅広く分析の対象とする。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	授業時に適宜プリントを配布する。
	気候から見た東アジア史	中島楽章	この講義では，気候変動が東アジアの歴史に及ぼした影響について論じる。14世紀や17世紀には，ユーラシア大陸全域で気候が急激に寒冷化し，天災や戦乱などがあるつぐ「14世紀の危機」・「17世紀の危機」と呼ばれる状況を迎えた。東アジアもその例外ではない。講義では特に東アジアにおける「17世紀の危機」に関する英文の研究論文を講読しながら，長期的な気候変動が東アジア史に及ぼした影響について考える。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	W.S.Atwell, "Some Observations of the 'Seventeen Century Crisis' in China and Japan," <i>Journal of Asian Studies</i> , 45-2, 1986 など (コピーを教場で配付)
文系主題科目Ⅳ	個人と環境の相互作用としての発達	◎田畠誠一 南博文 加藤和生 古賀 聡	人の発達は，個に閉じたものではなく，人が属する家族や社会を含むその環境との相互作用を通して展開するものである。したがって，人の発達のあり方は，そのおかれている環境の様相によって大きく異なってくる。これらの側面について，4名の教員が心理学のさまざまな研究領域を背景として，自己・家族・集団・学校・コミュニティ・環境などをキーワードにリレー講義を行う。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	
	社会生活における対人関係	◎吉良安之 福留留美 山下親子	本授業は，九州大学学生生活・修学相談室の常任相談員3名(吉良・山下・福留)がリレー式で講義を担当する。学生の皆さんはこれからの人生を生きていくなかで，さまざまな対人関係を体験する。この授業では，生涯にわたる社会生活のなかでの対人関係や，そこで生じやすい不適応，心身の不調について講述する。また履修学生同士で小グループをつくりテーマについて話し合う機会も設ける。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	資料等は，授業中に随時配布する。
文系主題科目Ⅴ	刑法の主要論点	野澤 充	「刑法学」の主要な論点に関して，まず前提となる基本的な問題状況の説明を行う。それを踏まえて，さらなる発展的または根源的な問題点および現在の最新の議論状況について，紹介・検討していく(現段階で明確な答えの出ないような論点も含む)。検討対象となる領域は「刑法総論」を中心とする予定であるが，場合によっては「刑法各論」の分野における論点も取り上げる。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	テキストは持参しなくても構わないが，小型六法は必ず持参すること。 テキスト：松宮孝明『刑法総論講義[第4版]』(成文堂) 詳しくは授業中に説明する。
	現代中国政治論	李 弘杓	この授業は21世紀に国際政治と経済の中心国家になる可能性が大きい中国の国内政治について集中的に検討することを主目的とする。このため，まず中華人民共和国(PRC)という国の誕生過程(中国の革命過程)を簡単に検討した後，中国の政治体制や政策形成メカニズムなどを討議しながら，中国の現代政治のダイナミズムを理解するのに必要な知識を養う。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	テキスト：毛里和子著『現代中国政治ー中国は変わったのか』(名古屋大学出版部，2004年)
文系主題科目Ⅵ	情報技術と経済社会	篠崎彰彦	インターネットやパソコンなどの情報技術の発達は，私たちの経済社会にどのような影響を与えるのだろうか。また，それは，どうしてだろうか。変化の激しいビジネス界の表面的な出来事だけに目を奪われると，めまぐるしさに惑わされてしまうが，その根底に流れる経済原理の本質を理解すれば，目の前の現象に翻弄されることなく，経済社会の動きがみえてくる。この講義では，「情報」や「コミュニケーション」が経済活動で果たす役割とその重要性を学びながら，情報技術の進歩と急速な普及が企業行動や経済に及ぼす影響の本質を探っていく。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	経済学を専門としない人文・社会系および理工系の学生向けの授業 テキスト：篠崎彰彦『IT経済入門』(日本経済新聞社)
文系主題科目Ⅶ						

IV. 高年次履修対象科目授業概要

主題科目

(個別教養科目, 情報処理科目Ⅱの読替科目)

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象学年	備 考 (テキスト)
文系主題科目Ⅶ	関 源太郎	第2次世界大戦後の先進国の歴史を振り返ると、まず市場経済の特性と見なされた「自由」と「効率性」を生かすためにも市場への介入を掲げたケインズ主義が席卷し、その後1970年代半ば以降にはケインズ主義を否定する、いわゆる「市場原理主義」が支配的になった。しかし、昨今の世界的な経済状況から判断しても、今日でも「市場と国家・政府」をめぐる問題は依然として重要な検討課題であろう。授業では、この現代的課題に迫ることを十分に意識して、イギリスの経済学がこの問題に取り組んできた歴史を取り上げる。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	
理系主題科目Ⅰ	◎宮本敬久 石野良純 古屋茂樹 原 敏夫	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、組み換えDNA技術、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介する。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	本授業はバイオテクノロジーの基礎を分かりやすく解説するものではない。受講に当たっては、生化学および分子生物学についての基礎知識が必要である。必要に応じてプリントを配布する。
理系主題科目Ⅱ	◎佐方功幸 野村一也	細胞の複製・分裂は個体の維持のみならず、癌や老化にも密接に関係した重要な現象である。本授業では、細胞の複製・分裂に関する現代的テーマを分かりやすく解説する。前半では一般的な細胞分裂や発生途上の細胞分裂についてエッセンスを講義する。後半では、iPS細胞、癌遺伝子、糖鎖生物学などについて入門的解説をする。	後期(火1) 病院地区	全学部 3年以上	
理系主題科目Ⅲ	大喜雅文	医療データの解析に必要な統計学の基礎とコンピュータを使った解析の実際について学ぶ。統計学の基礎としては、データの特徴量を求める記述統計と標本データから母集団の性質を求める推測統計(推定、検定)について解説する。種々の医療データを用いた演習により実践力を養う。	前期(火1) 病院地区	全学部 3年以上	テキスト：勝野恵子・井川俊彦著『Excelによるメディカル/コ・メディカル統計入門』(共立出版)
理系主題科目Ⅳ	◎橋本正章 河合 伸 大野正夫 矢山英樹	20世紀は科学の時代といわれる。当該講義では、20世紀の科学の基礎とその発展を物理学的な立場から概観する。また21世紀における将来的な展望についても講義する。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	全体で共通のテキストは指定しません。各担当教員が必要であれば指定します。
理系主題科目Ⅴ	◎藤原智子 鈴木右文 花田俊也 山岡 均 平山 寛	本科目は、低年次科目等で天文学や宇宙学の基礎知識を身に付けた人が、更に深く詳しく学ぶためのものである。教室内の座学ではなく、天体望遠鏡(新しく設置された40cm反射望遠鏡)を用いた観測実習を主とする授業であり、小惑星や突発天体等の観測(理学系)や、人工天体の観測(工学系)など、受講生の関心に応じてテーマを設定する。また、観測結果は授業内で報告(プレゼンテーション)を行い、宇宙環境に関する知識の充実・深化を図る。文系学生の受講も歓迎する。	前期(火1) 後期(火1) 伊都地区 箱崎地区	全学部 3年以上	初回ガイダンスや講義、報告会、最終回のまとめ等は火曜1限(伊都・箱崎)に行くが、実習は夜間に伊都で行うため、そちらも参加できることを履修条件とする。スケジュールについてはシラバスを必ず参照のこと。
理系主題科目Ⅵ	◎植田 正 森元 聡 麻生真理子 古賀 登 大嶋孝志 王子田彰夫 藤田雅俊 津田 誠 山田英之 黒瀬 等 田中嘉孝 小柳 悟 家入 一郎	薬学は広い専門からなる学問領域である。本講義は、各領域の専門家により、創薬等に関する基礎と応用に関してオムニバス形式で教授するものである。生薬学、薬剤学、薬物動態学のような薬学部独自の講義の他、薬学という切り口で有機化学、生物化学、物理化学領域に関して、高年次教養科目ということを踏まえ講義を実施する。高校の化学の知識があれば、文系・理系問わず単位取得は可能である。	前期(火1) 病院地区	全学部 3年以上	原則として30分以上の遅刻は受講を認めない。 薬学部生は専門科目のカリキュラム中で同じような講義内容を学ぶので履修は推奨しない。 必要な資料は担当教員から配布される。
新しい“くすり” への道					

IV. 高年次履修対象科目授業概要

主題科目

(個別教養科目, 情報処理科目Ⅱの読替科目)

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象学年	備 考 (テキスト)	
						副題
理系主題科目Ⅳ	環境問題と自然科学	◎吉村和久 安中雅彦 桑野良一 酒井 健 下東康幸 横山拓史 百島則幸	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在します。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんあります。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献しましたが、その反面、環境問題を引き起こしたものや起こしつつあるものもあります。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介します。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	講義ごとに資料を配布する。
	化学英語	松野寿生 ロートノン, アンドリュウ	化学英語論文の読解および執筆に必要な英単語、イデオムを学習する。また、化学英語論文の独特な表現を学習し、簡単な英作文を行う。英語でのプレゼンテーションや質疑応答に関する基本的な表現についても学習、実践する。	後期(火1) 伊都地区	全学部 3年以上	物理化学, 分析化学, 無機化学, 有機・高分子化学を修得しておくことが望ましい。
理系主題科目Ⅴ	海洋学概論	◎清川昌一 石橋純一郎 赤木 右 市川 香	地球表面の2/3以上は海洋によって覆われており、地球の環境・歴史を考える上でその存在は重要である。しかし多くの人にとって海洋はそれほど身近にはないため、なかなかそのことを実感することが難しい。この地球表面の広い範囲を占める海洋は海底も含めて、物理・化学・生物・地学といった様々な手法を用いて実像の解明を行うことがその理解のためには必要である。本講義では、実際に海洋での研究を展開している4名の教員が分担し、地球の過去・現在・未来における海洋・海洋底の営みについて様々な切り口で紹介し、皆さんとともに考えていく。 テキスト: 1) 保坂直紀『謎解き・海洋と大気物理』(ブルーバックス) …授業の内容で出てくる海の物理が網羅されている, 2) 日本海洋学会『海と環境』(講談社サイエンティフィック), 3) 平朝彦・徐垣・末廣潔・木下肇『地球の内部でなにがおこっているか』(光文社新書) …海洋底・地球の歴史についての最新の所見, 4) 大河内直彦『チェンジングブルー』(講談社) …海底に記憶されている地球環境の歴史。気候変動の解き方をわかりやすく解説する。読み物としてぜひおすすめ。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	海洋や海洋底に興味があり、新しい地球感を養いたい受講生をのぞむ。(テストにて評価が決まるので、集中して授業に臨むことを期待する。)
理系主題科目Ⅵ	図形情報処理入門	大月彩香	空間における諸問題を図的にとらえ研究する「図学」という学問があります。一般には、紙と筆記具に加えて三角定規とコンパスを用いた作図により作業が進められますが、この授業では、それらのメディアと道具をコンピュータと三次元CGアプリケーションにおきかえ、コンピュータが実現する仮想空間での立体や空間を図的に取り扱って図学問題を解いていきます。多くの分野に普及しつつある三次元CGやCADを理解し活用する上で、本授業で勉強したことが役立つでしょう。CGモデリングにおける空間操作の基礎知識としても有用です。	後期(火1) 伊都地区	全学部 3年以上	遅刻をしないこと。授業開始前に受講準備を済ませておくこと。
理系主題科目Ⅶ	脳情報科学入門	伊良皆啓治	脳から情報を取り出しコンピュータにつながるブレインコンピュータインターフェースが脳科学の新しい展開として話題になっています。脳科学は、文字どおり脳について研究する学問分野ですが、基礎医学、生物学、物理学、工学、情報科学、数学、心理学などの多岐の分野にまたがっている学際的なものです。本講義では、最新のいろいろな分野にまたがった脳科学の話題がきちんと理解できるようになることを目的に、脳科学の理解に必要な基礎事項から最近のトピックスまで、脳情報処理をキーワードに講義を行います。	前期(火1) 伊都地区	全学部 3年以上	特に予備知識は必要としませんが、脳について興味のある学生を望みます。
	情報科学の世界	◎古川 浩 山下雅史 鈴木英之進 瀧本英二 長谷川隆三 廣川佐千男 長谷川 勉	この科目では、情報科学の世界への本格的な入門として、アルゴリズム理論入門、データマイニング入門、計算学習理論入門、自動推論入門、ロボット工学入門、テキストマイニング入門、移動通信入門などのトピックを取り上げて紹介する。	後期(火1) 伊都地区	全学部 3年以上	講義内容の理解のために、特に文科系受講者は十分な予習・復習が必要である。テキスト: 特に指定しない。

IV. 高年次履修対象科目授業概要

主題科目

(個別教養科目、情報処理科目Ⅱの読替科目)

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象学年	備 考 (テキスト)	
						副題
理系主題科目Ⅷ	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	◎入江正洋 福盛英明	近年、ストレスが満ち溢れ、特に人間関係やコミュニケーションの問題で悩む人が増えています。この講義の目的は、ワークショップ形式(実技・体験学習形式)でコミュニケーション課題・グループ課題を実際に体験しながら、人との関わり方、コミュニケーションのあり方を考えていくことです。今後、就職活動を行うにあたって、または社会人・大学院生となっていく際に、人間関係やコミュニケーションのスキルは心の健康において重要なものとなりますので、この機会に自分を見つめなおす機会となることを願っています。	前期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	
	応用健康学	◎丸山 徹 眞崎義憲 上園慶子	日常生活に深く関係する身近な健康問題についてはその解決に結びつくセルフチェックの方法を考え、マスコミで取り上げられる医療問題については現状を紹介し自分なりの意見を持てる様にします。毎回講義のテーマを変えるオムニバス方式を取り、実習や体験を重視した双方向性の授業を目指します。	後期(火1) 箱崎地区	全学部 3年以上	健康意識の高い学生さんの受講を期待します。 テキストは特にありませんが、当センタースタッフによる『ヘルスサイエンス ところとからだ』(西日本新聞社)、『現代健康学』(九州大学出版会)が参考になります。

1-c. 社会連携科目〔平成17年度以前入学者は単位認定できません〕

社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。

このために、教育的要素と教育的効果が認められる社会連携活動（インターンシップ、ボランティア活動、NPO法人等への参加など）を学外における学修活動の成果として単位を認定します。

ボランティア活動Ⅰ（1単位）

ボランティア活動Ⅱ（1単位）

ボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位を認定します。

インターンシップⅠ（1単位）

インターンシップⅡ（1単位）

インターンシップを学外における学修活動の成果として単位を認定します。

（1）認定要件

1. 社会連携活動とは何かを理解するため、伊都地区で開講される「社会連携活動論」（総合科目）の単位を修得していること。または各学部等で開講されている社会連携活動に関する講義の単位を修得していること。
2. 受入先機関・組織が本学で認定されたものであること。
3. 活動に係る総従事時間が、2単位認定の場合は60時間以上、1単位認定の場合は30時間以上の活動であること。

（2）申請方法

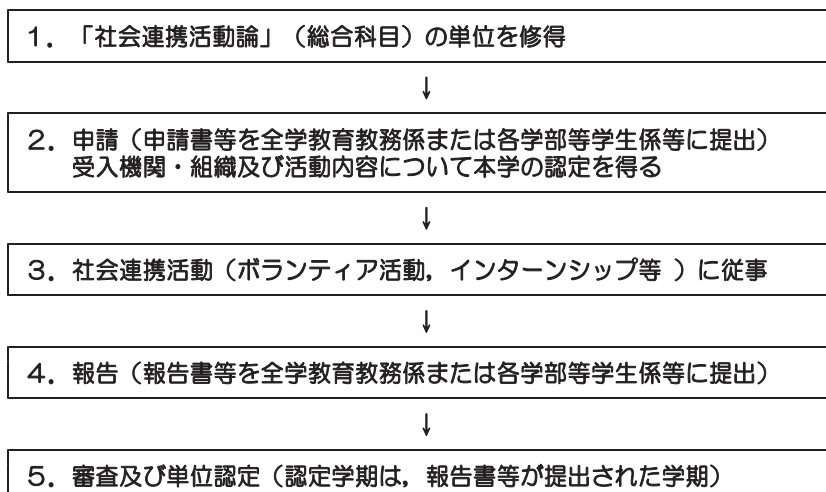
単位認定希望者は、申請書等を全学教育課全学教育教務係または各学部等学生係等へ提出し、事前に承認を得ること。

活動終了後は、速やかに報告書等を提出すること。

（3）審査方法

提出された申請書類・報告書等に基づき、書類審査並びに面接審査を行う。

（4）認定までの流れ



2. 総合科目（留学生センター開講科目）

JTW (Japan in Today's World) 開講科目

以下の科目は留学生センターが外国人短期留学コースで開講する科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）としての履修が認められます。授業はすべて英語により行われます。

なお、外国人短期留学コース（通称：JTW）とは、主に本学と諸外国の大学間の学生交流協定に基づく交換留学生を受け入れている半年または1年間のコースです。

《履修登録方法》①～③の手順で履修登録してください。

①留学生課（箱崎地区 中央図書館前の国際部棟内）で「JTWコース受講調書」を受け取ってください。

なお、JTWコース受講調書及び時間割・シラバス詳細は、<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jtw/courses/courses.htm> にてダウンロードできます。

②「JTWコース受講調書」に授業担当教員から受講許可の署名（押印）を受けて、留学生課に提出してください。

③学生用Webシステムで履修登録をしてください。

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
近代日本の社会 経済史2	今井 亮一	The course is designed to provide some introductory knowledge of Japanese history. This is a continuation of the history course I taught in the previous semester. The course will cover the history of Japan's political and economic system since World War II to the present.	前期(火2) 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本の文化的 発展	ボラック・ ジョーダン	This course surveys changing patterns of Japanese material, social, and representational life from prehistoric to early modern times. Lectures, readings, and discussions applying a question and answer format will explore important evolutionary transformations in ecology, demographics, technology, settlement and urbanization, economy, kinship and family, governance, religion, and aesthetics, among other cultural areas, using mostly anthropological and historical resources. Transitions in adaptive strategy, or mode of subsistence, from foraging through horticulture and agriculture to early industrialism, are emphasized as key determinants in the evolutionary process, and will order our review of Japan's past. Grading will reflect your participation in discussion and performance on a take-home examination.	前期(火3) 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
国際金融入門	儲 梅 芬	The following 7 parts will be included in this class. 1. Key Terms 2. Financial Policies 3. International Balance of Payment and Movement of Capital 4. The Theory of Exchange Rates 5. Capital Market 6. International Monetary Systems 7. Financial Crisis. I will provide lectures and give students chances to make presentations. Reports are required.	前期(火3) 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本と東アジア 関係論	李 弘 杓	This undergraduate level course offers an introduction to the most important aspects of Japan's role in East Asia, focusing on her evolving relations with main actors in the region such as the U.S., China, Russia and the two Koreas. The goal is to explain Japan's ever-changing place in the region. The approach is both conceptual and historical. In order to provide the answers to the questions of "what," "when" and "how" of Japan's evolving relations with the above countries, this course draws upon the best in the domain traditions of international relations and international political economy by taking into account the international activities of both the Japanese state and its people with relevant historical developments in the background. This is not a course on contemporary events, although contemporary issues and the post-Cold War global environment will be seriously considered.	前期(水2) 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本における教 養と教育	ボラック・ ジョーダン	This course examines past and contemporary enculturation practices in Japan, focusing on character and identity formation and training from infancy through childhood to adolescence, in the contexts of home, school, and society at large. Readings, lectures, and class discussions address perennial and emergent development issues, and draw variously upon anthropological, psychological, sociological, and historical materials. We will consider research by Japanese and foreign scholars on such topics as mother-infant relations, family member roles and interactions, adjustment to formal schooling, peer culture effects, mental health issues, inculcation of morality in the classroom, approaches to learning and instructional strategies, gender and social class patterns, and the impact of media (television, video, <i>manga</i> , etc.) on personality, among others. Grading will be based on class participation, weekly reflections, and a short research paper. The goal is to deepen your appreciation of how Japanese become Japanese-how they reproduce and transform themselves-and of how this broad topic has been approached in method and theory.	前期(水3) 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。

IV. 高年次履修対象科目授業概要
総合科目（留学生セメ開講科目）

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日・時間) 開講地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
変貌する日本 経済	今井 亮一	The course is designed to provide some introductory knowledge of Japanese economy. Students will learn the essence of historical and institutional background of Japanese Economy. In this course, we will focus on the structural issue of Japanese economy as a background of the 10 year depression since the crash of the bubble economy in 1990. Key words of this course: Corporate organization and governance, financial system and corporate groups, competition and business strategies, exchange rate regimes and international capital flows, productivity gap across industries, aging society, education and meritocracy, economic development and class stratification, and others.	前期（水3） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
東アジアの巡礼 の伝統	スティラー・マヤ	This course consists of two components, introductory lectures about East Asian religious traditions, and separate discussion and presentation sections on pre-modern and contemporary pilgrimage sites in China, Japan and Korea. Students will choose a specific pilgrimage site and religious tradition as the focus of their research. Through reading, discussion, research, and student presentations, we will examine the roles of pilgrims and merchants, sacred place and sacred time, and the ritual elements present in Asian pilgrimage practices across different religious traditions including Buddhism, Daoism, Shamanism, Shinto and Shugend. The exploration of a traditional Japanese pilgrimage site nearby Fukuoka will complement our classroom studies.	前期（木2） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
福岡の物産： 博多の味	クロス・ティム	This course gives an overview of Hakata identity. The course surveys the range of material culture and practices that is used to support Hakata identity. Thematically, attention is given to discourses of local production and material culture as identity. Methodologically, our overall concern is with the question of how to represent the experience of cultural analysis. Fictocritical writing is one way to address several contexts that frame our response to things we see that invent and sustain the imaginary community of Hakata. Our classes will generally begin with an introduction of a certain class of artifact. This will be followed by in-class writing exercises. You are expected to share your writing with other people in class. If you are not comfortable reading out your work, you can always pass the paper around in your small group.	前期（木2） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本語の輪郭	岡崎 智己	This course will look at some fundamental linguistic features of Japanese. In this semester discussion will cover topics related to Japanese verbs and particles, and cultural aspects of the language. A series of case studies on each topic will be conducted so as to examine the characteristic of Japanese in comparison with English and other languages where applicable. Evaluation is on the bases of class participation, one oral presentation (as in a group), quizzes and two short written assignments.	前期（木3） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。 講義、討論、発表、小テストは全て英語で行われます。提出する課題レポートも英文となる。
現代の日本文学	クロス・ティム	This course does not give an overview of Japanese literature. Instead it surveys short stories and several novels written since the mid-eighties. The course is suitable for students who are interested in examining how literature supports and subverts the idea of national culture. Thematically, attention is given to areas such as history, the family, the body, and sexuality. Our overall concern is with the question of change. This concern expands beyond consideration of aesthetics decisions between different kinds of stories and different kinds of presentation (Why is the text designed this way? Can we imagine a different form for this text?). We will hopefully be able to read a range of stories and novels as examples of support and critique of the idea of national identity (What should we do about this text?). Close readings of the texts will be our primary mode of advance.	前期（木3） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
黒澤明の日本	ナカムラ・テーマ	Akira Kurosawa directed 30 films in his more than 50-year career. He was first appreciated as a film director in North America, and is now respected by audiences and critics worldwide, including his native Japan. His films have won many awards, and in 1989 he was nominated for an Academy Award for Best Director. This course will present an overview Kurosawa's films from 1943-1993 with a focus on his representation of Japan in his films.	前期（金2） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。

IV. 高年次履修対象科目授業概要
総合科目（留学生センター開講科目）

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
現代日本政治 入門	蓮見二郎	This course is to explore major topics and debates on Japanese politics. Japan has experienced a dramatic change of the ruling party in 2009 (from the Liberal Democratic Party (LDP) to the Democratic Party of Japan (DPJ)). This government handover provokes such questions as to why the half-century-lasting LDP government was so suddenly collapsed, why Japanese people requested political power shift, and what have taken place with the new government for these two years after this regime change. These questions cannot be properly answered without sufficient understanding of political institutions, the constitution, power relationships, political cultures, history, electoral systems, socio-economic conditions, and ideological differences of Japanese society. This course, therefore, examines these issues as well as some key public policies in relation to current Japanese politics. No prior study on Japanese politics is required; but some knowledge about politics of your country is generally useful in understanding the particularity and the universality of Japanese politics from a comparative perspective.	前期（金2） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
現代日本と大衆 文化	ナカムラ・テーマ	This course introduces and defines popular culture through basic theories and ideas of consumer, commercial, economic, political and media/advertising cultures. The interconnection of these concepts forms a method of examining contemporary Japanese popular culture (JPC). The inter-relationship among these concepts to themes in contemporary Japanese popular culture (JPC) is explored through current scholarly articles including Japanese, other non-Western and Western scholarship.	前期（金3） 箱崎地区	全学部 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。

ATW (Asia in Today's World) 開講科目

以下の科目は、留学生センターが外国人短期留学コースの一環として夏季集中で実施する九州大学サマーコースで開講する科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）としての履修が認められます。

受講生募集及び履修登録方法等の詳細については、後日、掲示によりお知らせします。

※ 授業はすべて英語により行われます。

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	開講学期 (曜日時限) 開講地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
転換期の日本政治・社会	パンオーベルベケ ディミトリ	This course addresses dynamics of politics and society in Asia focusing on Japan in particular. The focus of this course will be on political, legal and social institutions, not only by analyzing how these institutions are shaped today but also addressing them from an historical, cultural, and sociological perspective. Based on an understanding of domestic and bilateral issues, in this course students will also study how Japan is defining its position in Asia by fostering regional cooperation and how Asia as a region is redefining its relation with the US and Europe.	前期 集中講義 箱崎地区	全学部 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。 授業日程は、6/27～6/29、7/2～7/6、7/9～7/13の各日3限。 (6/28と7/13は2～3限)
日本文学における「死」の考察	ピニングトン ・ノエル	This is a survey of the literary treatment of death and killing in the Japanese tradition from the 7 th to the 18 th centuries. The course is both a chronological introduction to the literary tradition and an investigation of Japanese conceptions of death, with particular attention paid to origins in mainland culture and contrasts with that culture. All materials will be read in English translation.	前期 集中講義 箱崎地区	全学部 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。 授業日程は、6/27～6/29、7/2～7/6、7/9～7/13の各日3限。 (6/28と7/13は2～3限)
現代日本とグローバル社会	パージェス ・クリス	How do we understand a rapidly globalizing Japan? What are some of the keywords necessary to grasp the complexities of Japanese society in the twenty-first century? This course attempts to answer such questions by covering a broad range of topics related to contemporary Japanese society, including Nihonjinron and national identity, cultural diplomacy and soft power, 'international' marriage, minorities, migration, and multiculturalism. While the focus is firmly on Japan, the importance of Japan's position in and relations with Asia will become clear as the course develops.	前期 集中講義 箱崎地区	全学部 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。 授業日程は、7/23～7/27、7/30～8/3、8/6～8/9の各日3限。 (8/1と8/9は2限、8/8は2～3限)
アジアの中の 日本	リム・タイウエイ	This course is a survey of issues pertaining to Japan that include energy leadership, demographic changes, robotic technologies and soft power/creative innovation in popular culture. This course does not pretend to be comprehensive but highlights selectively some aspects of Japan's unique development not only through text but also through visual materials and visits to actual sites. In the context of perceptions of the Asia-Pacific economic shift, it also situates Japan and its interactions in Northeast Asia without omitting the great importance and significance of US and India to the region.	前期 集中講義 箱崎地区	全学部 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。 授業日程は、7/23～7/27、7/30～8/3、8/6～8/9の各日3限。 (8/1と8/9は2限、8/8は2～3限)

3. 言語文化自由選択科目

(平成17年度以前入学者：言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目の読替科目)

言語文化基礎科目を(原則として)履修し終わった人に対して、より高度な語学力を修得するための実践的、実用的な少人数の授業です。多様な学習目的に対応した授業科目をアラカルト方式で開講しますので、希望に応じて自由に選択することができます。また、初めて新しい外国語を履修する人に対する授業科目として「入門(又は速修)〇〇語」も用意されています。なお、この言語文化自由選択科目は学部生向けの授業です。定員に余裕がある場合に限り、大学院生、教職員にも開放されます。

授業は、言語文化研究院箱崎分室(箱崎地区旧工学部3号館)及び伊都地区で行われます。

「言語文化自由選択科目」の単位は、総合選択履修方式の単位として認定されますが、認められる単位数に関しては、学部・学科により異なりますので、『全学教育科目履修要項』の「各学部・学科の履修細目」で確認してください。

なお、「言語文化基礎科目」(平成17年度以前入学者：「言語文化科目Ⅰ」)の単位としては認定されません。

(1) 履修の仕方

次の①～③の手順で受講申込と履修登録をしてください。

- ① **言語文化自由選択科目開講案内**を各学部等学生係、伊都地区全学教育教務係、言語文化研究院箱崎分室で学期開始前に配付しますので、受講にあたって参照してください。
言語文化研究院箱崎分室ホームページ (<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~flcbr/>) にも掲載しています。
- ② 単位修得希望の有無にかかわらず、**言語文化研究院箱崎分室で受講申込み**をしてください。
ただし、伊都地区開講の英語科目の受講希望者で、箱崎分室で申込みをすることが困難な場合はEメールでも申込み可能です。Eメールアドレス：flcbr@flc.kyushu-u.ac.jp
※ 英語科目を受講する場合は、クラス分けのためのプレースメントテストを受けてください。ただし、過去3年以内のTOEIC, TOEFLのスコアをプレースメントテストの点数として使用することもできます。詳細は開講案内で確認してください。
- ③ 単位修得を希望する場合は、「学生用Webシステム」で履修登録を行ってください。

(2) 授業概要

【 英 語 】

※ 英語の言語文化自由選択科目はすべて2年生以上を対象としています。

授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

英語会話Ⅰ(前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

語彙、文法力を向上させることにより、英語による意志疎通をスムーズに行う実践的英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語会話Ⅱ(前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容について自由に会話ができるように英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅠ(前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

英語による効果的なプレゼンテーションのあり方を理解し、パブリック・スピーキングの基礎を学びます。一般的な内容についてのスピーチ、ディスカッション、ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅡ(後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

英語プレゼンテーションⅠの内容に関してさらに高度な訓練を行います。専門的な内容についてのスピーチ、ディスカッション、ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

IV. 高年次履修対象科目授業概要

言語文化自由選択科目

(言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目の読替科目)

英語リスニングⅠ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

英語によるニュースを中心とした教材を用いて，自然な速さの英語が理解できるような，聴解力の養成をめざします。

英語リスニングⅡ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容についての講義や講演，及びテレビドラマやドキュメンタリーや映画等を教材として用いて，高度な聴解力の養成をめざします。

英語ライティングⅠ（前期開講，週1回，2単位，伊都地区）

英文パラグラフの書き方を踏まえた上で，一般的な内容についての英文エッセイの構成と執筆法を学びます。

英語ライティングⅡ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室・伊都地区）

論文の構成と執筆法の基礎を学びます。研究論文を執筆するのに必要な論理的思考能力や論理的文章構成能力の養成をめざします。

英語リーディングⅠ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

英字新聞や英文雑誌などの記事を読みこなす能力の養成をめざします。時事英語を中心に読みますが，人文科学・社会科学・自然科学の諸分野の記事を読むこともあります。

英語リーディングⅡ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

新聞や雑誌の記事だけでなく単行本も含んだ大量の英文を早く正確に読む能力の養成をめざします。

英語リーディングⅢ（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

専門的な題材についての高度な内容の文献を中心に正確に読解する力の養成をめざします。

英語テスト・テイキング（前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室・伊都地区）

TOEFLやTOEICなどの国際的に通用する英語検定試験のスコアを上げるために必要な能力の養成をめざします。同じ学期に複数開講する場合は，一方をTOEFL受験のためのクラス，他方をTOEIC受験のためのクラスに分けることもあります。

【 担当教員（平成24年度） 】

アムストロング，M. アレリズ，J. アスコム飯野，J.R. 稲 葉 美由紀 グイン，M.
鈴木 隆子 * ターナー，P. * 津 田 晶子 ブラウン，I. ホール，M.

*印は非常勤講師

【 ドイツ語 】

※ 「入門ドイツ語」以外のドイツ語の言語文化自由選択科目は2年生以上を対象としています。

授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

ドイツ語中級Ⅰ（週1回，2単位，箱崎分室）〔平成25年度開講予定〕

言語文化基礎科目で学んだドイツ語を継承・発展させ，さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定3級に合格する力をつけることを目標とします。

ドイツ語中級Ⅱ（後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

言語文化基礎科目及びドイツ語中級Ⅰで学んだドイツ語を継承・発展させ，さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定3級及び2級に合格する力をつけることを目標とします。ドイツ語中級Ⅰを履修していない人も受講できます。

ドイツ語オーラル演習Ⅰ（前期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力の養成をめざして，基礎的な学習を行います。文字情報をとおしてのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語オーラル演習Ⅱ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

ドイツ語オーラル演習Ⅰの内容をさらに高め、特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力のさらなる向上をめざします。様々なテーマや状況を設定し、文字情報を通してのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語読解演習Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

ドイツ語の文章を正確に読解し、日本語に翻訳するための理論を学び、それを様々な教材を用いて実践します。大学院を受験する際にドイツ語が必要な人に適した授業です。

ドイツ語読解演習Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

ドイツ語読解演習Ⅰの内容をさらに高め、様々なジャンルの文章や高度な文献を読解する能力を養成します。

ドイツ語表現演習Ⅰ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

ドイツ語のライティング能力の基礎的な力を養成します。ドイツ語で会話をするときも、実は私たちは即座に独作文をしているのだと考えることもできます。様々な構文や言い回しを修得してドイツ語による表現力を伸ばします。

ドイツ語表現演習Ⅱ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

ドイツ語表現演習Ⅰの内容をさらに高め、ドイツ語によるライティング能力を養成します。やや複雑な構文やドイツ語特有の言い回しを修得してドイツ語による表現力をさらに伸ばします。

ドイツ語発音演習 (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

日本人には難しいドイツ語の個々の発音や文レベルでの強弱アクセント、高低アクセントなどを含むドイツ語のリズムを学習し、正確に発音できるように実践的練習を行います。

ドイツ語リスニング演習Ⅰ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

ドイツ語の文章を聞き取る際に必要なポイントを学びながら、実践的な練習を行い、リスニング能力の向上をめざします。

ドイツ語リスニング演習Ⅱ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

ドイツ語リスニング演習Ⅰの内容をさらに高め、文章のスピード、内容、話す人などを多様化し、さまざまなシチュエーションのドイツ語に対応できるリスニング能力を養成します。

入門ドイツ語 (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

第3外国語等として、初めてドイツ語を学習する人を対象にした科目です。発音および基本的な文法、やさしい文章を学ぶ初歩から始めますが、授業の密度・進度は、半年でドイツ語検定4級に合格するレベルに目標を置きます。ドイツ語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

ドイツ語圏の言語と文化 (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

ドイツはもとよりスイスやオーストリアなどのドイツ語が話されている地域の文化・歴史・社会などを多方面から学びます。様々なメディアから教材を選択します。

【 担当教員 (平成24年度) 】

岡 野 進 カスマン, A.S. 田 畑 義 之 恒 川 元 行 津 村 正 樹

【 フランス語 】

※「入門フランス語」以外のフランス語の言語文化自由選択科目は2年生以上を対象としています。

授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門フランス語 (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門者を対象とし, 短期間でフランス語文法の基礎を修得することをめざします。フランス語再入門 (recyclage) としても積極的に活用してください。フランス語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

フランス語作文コース (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語の基礎を修得した学生を対象に, フランス語らしいフランス語を綴るためのポイントを手ほどきします。

フランス語読解コース (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語の基礎を修得した学生を対象に, フランス語をより正確に, より深く味読するためのコツを伝授します。大学院受験に第2外国語が必要な学生に最適です。

フランス語実用会話 (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語をひととおり学んだ学生を対象に, 実践的会話能力のさらなる向上をめざします。フランス人講師が担当します。

【 担当教員 (平成24年度) 】

佐藤典子 羽賀賢二 *リシュール, C.

*印は非常勤講師

【 中国語 】

※「入門中国語Ⅰ, Ⅱ」以外の中国語の言語文化自由選択科目は2年生以上を対象としています。

授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門中国語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

中国語を学んだことがない人を対象とします。内容は中国語Ⅰに準じます。中国語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

入門中国語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門中国語Ⅰに続く科目です。内容は中国語Ⅱに準じます。中国語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

中国語口語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

中国語のやや高度な会話能力の修得を目的とします。

中国語口語Ⅱ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

中国語口語Ⅰの基礎の上に, さらなる会話能力の向上をめざします。

中国語聞き取りⅠ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成25年度開講予定〕

中国語のやや高度な聞き取り能力の修得を目的とします。内容は原則として言語文化基礎科目の中国語LLの次の段階にあたります。

中国語聞き取りⅡ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

中国語聞き取りⅠの基礎の上に, 聞き取り能力を発展させることをめざします。

【 担当教員 (平成24年度) 】

中里見 敬 李 麗 君

【 ロシア語 】

※「入門ロシア語Ⅰ, Ⅱ」はロシア語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。
集中講義の実施日程等は決定次第、掲示でお知らせします。

入門ロシア語Ⅰ（前期開講, 集中講義, 2単位, 箱崎分室）

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業です。
ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて、文法の基礎を学びます。また、簡単な会話の表現を勉強し、音声教材を用いた聞き取り、発音練習をおこないます。

入門ロシア語Ⅱ（前期開講, 集中講義, 2単位, 箱崎分室）

入門ロシア語Ⅰに引き続いて基本的な文法と会話表現を学びます。

【 担当教員（平成24年度） 】

佐藤 正 則

【 韓国語 】

※「入門韓国語」以外の韓国語の言語文化自由選択科目は2年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門韓国語（前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室）

入門者を対象にして、短期間で韓国語の基礎をマスターすることをめざして開講された科目です。正確な発音と基本的な文法を学びながら、発信型外国語能力の獲得ができるように工夫します。韓国語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

韓国の言語と文化（後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室）

福岡とは一衣帯水の地にある朝鮮半島に関して、言語の基本から歴史・文化・生活習慣に至るまで平易に解説します。この科目では、韓国語の総合的運用能力の向上をめざす学生諸君の積極的な参加を希望します。2年生以上を対象としています。

【 担当教員（平成24年度） 】

李 相 穆 松 原 孝 俊

【 スペイン語 】

※「入門スペイン語」以外のスペイン語の言語文化自由選択科目は2年生以上を対象としています。
授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門スペイン語（前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室）

スペイン語の初心者を対象にした科目です。スペイン語の文字、発音から始めて文法の基礎をひとつおりの学習します。スペイン語を第1・第2外国語に選択していない全学年を対象としています。

総合スペイン語演習（週1回, 2単位, 箱崎分室）〔平成25年度開講予定〕

スペイン語の総合能力（聞く・話す・読む・書く能力）をスペイン語圏で製作された最新の教材（DVD等）を用いて養成していきます。

表現スペイン語（後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室）

スペイン語の文法知識をひとつおりの身につけた人を対象にした作文クラスです。特に、日本人がスペイン語を使用する際に間違えやすい項目に焦点をあて、それらを正しく使いこなせるよう和文西訳／西文和訳の練習を行います。

IV. 高年次履修対象科目授業概要

言語文化自由選択科目

(言語文化科目Ⅱ, 外国語コミュニケーション科目の読替科目)

時事スペイン語 (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語圏で発行された新聞・雑誌の精読を通して, スペイン語圏の現状及び日本とスペイン語圏の関係, さらに国際社会の動向がスペイン語圏においてどのように捉えられているかを考察していきます。

スペイン語圏の言語と文化 (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語の総合能力(聞く・話す・読む・書く能力)のうち, 特に「聞く」「読む」力の向上とスペイン語圏の社会・文化的多様性を理解することを目的とします。

【 担当教員 (平成24年度) 】

阿部 俊大 * 土屋 亮 * フジヨシ ミヨコ 山 村 ひろみ

*印は非常勤講師

【インドネシア語】

※全学年を対象としています。授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門インドネシア語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

インドネシア語を初めて学習する人を対象にした科目です。インドネシア語はインドネシア共和国の共通語として多くの人々に話されており, マレーシアで話されているマレーシア語と, シンガポールとブルネイで話されているマレー語とも非常によく似た言語ですので, それらの隣国でも通じます。表記は, アルファベットで, しかもローマ字読みすればだいたい通じるので発音も構造も比較的簡単です。

文字の発音から始め, 初歩的な文法や文章を使ってインドネシア語の日常会話や旅行の時役に立つ会話の修得を目標とします。授業は, 口頭の練習問題を中心に進めます。

入門インドネシア語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門インドネシア語Ⅰに引き続き, さらに一歩進んだインドネシア語の基本的な文法や構文とインドネシア人に出会ったらすぐに使える生きたインドネシア語の修得を目標とします。基本的な構文を覚えて, 学んだ語彙を使って, 様々な場面の会話を作って練習し, よりスムーズにインドネシア語でのコミュニケーションをはかるようにめざします。また, 会話の背景にあるインドネシアの文化や生活習慣にも随時触れていきたいと思えます。

【 担当教員 (平成24年度) 】

* 遠藤 ファビオラ

*印は非常勤講師

【イタリア語】

※全学年を対象としています。授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

入門イタリア語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

イタリア語を初めて学習する人を対象とします。文字, 発音, 文法の基礎を学習しながら, 実用的なイタリア語の修得を目的とします。

発音と表記, 定冠詞と不定冠詞, 名詞と形容詞の変化, “essere” と “avere” 動詞を使った色々な表現, 動詞(不規則動詞も含めて)の現在形, 関係代名詞, 副詞など。

入門イタリア語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

前期における学習内容の理解を深めながら, 中級レベルまでのイタリア語文法(過去形や進行形など)を学習します。単なる文章の暗記ではなく, 文法の基礎知識を応用し, 作文や会話を可能にすることが目的です。

【 担当教員 (平成24年度) 】

* マローネ, L.

*印は非常勤講師

【オランダ語】

※全学年を対象としています。集中講義の実施日程等は決定次第, 掲示でお知らせします。

速修オランダ語Ⅰ (前期開講, 集中講義, 2単位, 箱崎分室)

オランダ語を初めて学習する人を対象にした科目です。オランダ語はオランダやベルギーなどで話されており、英語やドイツ語によく似た言語です。初歩的な文法や簡単な文章の習得を目標とし、対話形式の練習を中心に授業を進めます。日本ではあれだけ多くの人が英語やドイツ語を学習しているのに、オランダ語のできる人はごくわずかしきません。皆さんもオランダ語を学んでみませんか？

速修オランダ語Ⅱ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成26年度開講予定〕

「速修オランダ語Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法や平易な文章の習得を目標とし、対話練習を通して、日常的なコミュニケーション能力の向上をめざします。「速修オランダ語Ⅰ」を履修した人か同程度の学力のある人を対象にします。

【 担当教員 (平成24年度) 】

田 畑 義 之

【エスペラント】

※全学年を対象としています。集中講義の実施日程等は決定次第, 掲示でお知らせします。

速修エスペラントⅠ (前期開講, 集中講義, 2単位, 箱崎分室)

エスペラントを初めて学習する人を対象にした科目です。エスペラントは1887年にポーランドの眼科医ザメンホフ博士によって作られた人工国際語です。人工語なので不規則変化や例外がなく、非常に習得しやすい言語です。ヨーロッパ言語の構造に興味がある人、今まで学習した外国語がものにならなかったが、何か日本語以外の言語が話せるようになりたい人、英語とアメリカへの一極集中に不満な人にお勧めです。

速修エスペラントⅡ (週1回, 2単位, 箱崎分室)〔平成26年度開講予定〕

「速修エスペラントⅠ」を履修した人か同程度の学力のある人を対象にします。「速修エスペラントⅠ」に引き続き、さらに進んだ文法学習、会話練習の他にリスニングの訓練や、読解演習を予定しています。ザメンホフの生涯、エスペラント原作文学、言語帝国主義等についても随時触れていきます。

【 担当教員 (平成24年度) 】

田 畑 義 之

4. 健康・スポーツ科学科目

(平成17年度以前入学者：健康・スポーツ科学科目Ⅱの読替科目)

健康・スポーツ科学科目では、1年次後期から、「身体運動科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「健康・スポーツ科学講義Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。

健康・スポーツ科学科目のうち高年次生（3年生以上）を対象に開講される科目は、下記のとおりです。

※ 授業の詳細をシラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp>) で確認して授業に臨んでください。

身体運動科学実習Ⅲ 【1単位】(前・後期開講, 伊都地区・箱崎地区)

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成することが本実習の目的です。技能の高度化をめざすことを通じて、健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的実践を推進していくための方法を学習することになります。

身体運動科学実習Ⅳ 【1単位】(前・後期開講, 伊都地区・箱崎地区)

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成するとともに、さらには生涯学習社会においてスポーツの学習が有する意味、意義などについて理解を深めます。また、人々の健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的実施を推進していくためのノウハウについても学びます。

【担当教員(平成24年度)】

大 柿 哲 朗 齊 藤 篤 司 杉 山 佳 生

(1) 箱崎地区開講科目

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限)	対象 学年	備 考 (テキスト)
身体運動科学実習Ⅲ	総合スポーツ	大 柿 哲 朗 運動不足は、体力の低下だけでなく、身体諸機能の低下、生活習慣病の発症、精神心理面への悪影響をもたらします。若いうちに運動の習慣や技能を身につけておくことは、心身の健康だけでなく、将来の激しい競争社会を生き抜くため、充実した長い人生を送るためにも重要です。本授業では、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球などのさまざまなスポーツを通して、体力の維持増進、運動不足やストレスの解消、受講者間の人間関係の向上を目指します。運動が苦手な人の受講も歓迎します。	前 期 (火1)	全学部 3年以上	実技のできる服装、室内履きの運動靴で参加してください。
	バドミントン 他	杉 山 佳 生 本授業では、バドミントンをメインに、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトボール、バスケットボール、ソフトバレー、卓球、イーゼルクリケット等のさまざまなスポーツを行います。これらの種目における基礎的および応用的技術の学習やゲームの実践を通して、身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義や生涯発達の意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に、コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して、運動活動を実施していきます。	後 期 (火1)		
身体運動科学実習Ⅳ	総合スポーツ	大 柿 哲 朗 運動不足は、体力の低下だけでなく、身体諸機能の低下、生活習慣病の発症、精神心理面への悪影響をもたらします。若いうちに運動の習慣や技能を身につけておくことは、心身の健康だけでなく、将来の激しい競争社会を生き抜くため、充実した長い人生を送るためにも重要です。本授業では、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球などのさまざまなスポーツを通して、体力の維持増進、運動不足やストレスの解消、受講者間の人間関係の向上を目指します。運動が苦手な人の受講も歓迎します。	前 期 (火1)		実技のできる服装、室内履きの運動靴で参加してください。
	バドミントン 他	杉 山 佳 生 本授業では、バドミントンをメインに、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトボール、バスケットボール、ソフトバレー、卓球、イーゼルクリケット等のさまざまなスポーツを行います。これらの種目における基礎的および応用的技術の学習やゲームの実践を通して、身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義や生涯発達の意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に、コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して、運動活動を実施していきます。	後 期 (火1)		

(2) 伊都地区開講科目

授業科目名	担当教員	授 業 概 要	開講学期 (曜日時限)	対象 学年	備 考
身体運動科学実習Ⅲ	コミュニケーションスポーツ	杉 山 佳 生 本授業では、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトボール、バドミントン、卓球、ソフトバレー、ゴルフ、ビリヤード、ダーツ等のさまざまなスポーツを行います。これらの種目における基礎的および応用的技術の学習やゲームの実践を通して、身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義や生涯発達の意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に、コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して、運動活動を実施していきます。	前 期 (火1)	全学部 3年以上	
	いろいろなスポーツにチャレンジ	齊 藤 篤 司 健康・スポーツ科学演習や実習でせっかく体感し始めたいろいろな運動のメリットを卒業後も途絶えさせないようサポートするのが本授業の目的です。そのため、1つのスポーツにこだわらず、また、半期間を通しての授業では開講しづらいような挑戦的な種目も含め、自分に合った生涯スポーツ探しをしながら、スポーツが持つ可能性を追求していきます。	後 期 (火1)		
身体運動科学実習Ⅳ	コミュニケーションスポーツ	杉 山 佳 生 本授業では、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトボール、バドミントン、卓球、ソフトバレー、ゴルフ、ビリヤード、ダーツ等のさまざまなスポーツを行います。これらの種目における基礎的および応用的技術の学習やゲームの実践を通して、身体運動・スポーツ活動が持つさまざまな健康的意義や生涯発達の意義に対する理解を深めていくことを目標とします。特に、コミュニケーションスキルや対人関係スキルの向上といった社会心理的側面への効果に注目して、運動活動を実施していきます。	前 期 (火1)		
	いろいろなスポーツにチャレンジ	齊 藤 篤 司 健康・スポーツ科学演習や実習でせっかく体感し始めたいろいろな運動のメリットを卒業後も途絶えさせないようサポートするのが本授業の目的です。そのため、1つのスポーツにこだわらず、また、半期間を通しての授業では開講しづらいような挑戦的な種目も含め、自分に合った生涯スポーツ探しをしながら、スポーツが持つ可能性を追求していきます。	後 期 (火1)		

V. 科目の読替について(平成17年度以前入学者対象)

平成18年度から全学教育科目のカリキュラムが改正されました。このため、平成18年度以降入学者を対象に開講される科目を修得することにより、平成17年度以前入学者の科目に読み替えられます。下記に記載されている科目の読替一覧で、読替科目を確認の上、履修計画を立てるようにしてください。

なお、読替科目の中には、読み替え手続きが必要な科目もあります。手続きの詳細は、別途配布する「科目の読替について」を熟読の上、申請してください。

個別教養科目(高年次履修対象)

高年次履修対象の個別教養科目は、課題科目及び主題科目を修得することにより読み替えられ、課題科目及び主題科目の副題が科目名として成績に記載されます。また、既に修得した個別教養科目と同一名称の副題の科目は履修することができません。

なお、履修要項の履修細目一覧に記載されている個別教養科目のうち、「六本松キャンパスで開講する科目」の区分の単位とはなりませんので、注意してください。

区分	未修得科目	区 分	開講科目	副 題	単位数		
個別教養科目 (高年次履修対象)		課 題 科 目	課題科目Ⅰ	EU論基礎—制度と経済	2		
				グローバル化とアジア経済	2		
				アントレプレナーシップ・ファイナンス	2		
			課題科目Ⅱ	会社とは何か, 起業するとは何かを学ぼう	2		
				日本と世界の課題フォーラム	2		
				研究と技術のマネジメント	2		
			課題科目Ⅲ	工学と倫理	2		
				ビジネスにおける競争優位性	2		
			課題科目Ⅳ	環境調和型社会の構築	2		
				次世代の低炭素エネルギー	2		
			課題科目Ⅴ	サイバー空間デザイン	2		
				日本のグランドデザイン	2		
			主 題 科 目	文系主題科目Ⅱ	日本語の位相	2	
					文系主題科目Ⅳ	気候から見た東アジア史	2
					文系主題科目Ⅴ	個人と環境の相互作用としての発達	2
		社会生活における対人関係		2			
		文系主題科目Ⅵ		刑法の主要論点	2		
				現代中国政治論	2		
		文系主題科目Ⅶ		情報技術と経済社会	2		
				市場と国家の経済思想史	2		
		理系主題科目Ⅰ		バイオテクノロジー詳論	2		
				細胞の複製と発生・分化	2		
		理系主題科目Ⅱ		医療統計学	2		
理系主題科目Ⅲ	自然科学概論			2			
	望遠鏡で見る宇宙環境	2					
理系主題科目Ⅳ	新しい“くすり”への道	2					
	環境問題と自然科学	2					
理系主題科目Ⅴ	化学英語	2					
	海洋学概論	2					
理系主題科目Ⅶ	脳情報科学入門	2					
	情報科学の世界	2					
理系主題科目Ⅷ	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	2					
	応用健康学	2					

※ 教育職員免許状を取得するために必要な個別教養科目「日本国憲法」(2)は、伊都地区で開講される文系コア科目「日本国憲法」(2)を履修することにより読み替えができます。(伊都地区で開講される科目の読替の詳細については、全学教育課全学教育教務係又は各学部学生係等で配付する「科目の読替について」を参照してください。)

言語文化科目Ⅱ

言語文化科目Ⅱは言語文化自由選択科目を修得することにより読み替えられます。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数	備考		
英 語	英語会話Ⅰ	2	英 語	英語会話Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修 できません。		
	英語会話Ⅱ	2		英語プレゼンテーションⅠ	2			
	英語リスニングⅠ	2		英語会話Ⅱ	2	いずれか1科目しか履修 できません。		
	英語リスニングⅡ	2		英語プレゼンテーションⅡ	2			
	英語エッセイ・ライティングⅠ	2		英語リスニングⅠ	2			
	英語エッセイ・ライティングⅡ	2		英語リスニングⅡ	2			
	時事英語講読	2		英語ライティングⅠ	2			
	自然科学英語講読 ※1	2		英語ライティングⅡ	2			
	人文科学英語講読 ※1	2		英語リーディングⅠ	2			
	英語文学講読 ※1	2		英語リーディングⅡ	2			
	自然科学英語講読 ※1	2		英語リーディングⅢ	2			
	人文科学英語講読 ※1	2		英語テスト・テイキング	2			
	英語文学講読 ※1	2						
	実用英語演習Ⅰ ※2	2						
	実用英語演習Ⅱ ※2	2						
	ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ		2	ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修 できません。
		ドイツ語中級Ⅱ		2		ドイツ語発音演習	2	
		ドイツ語圏の言語と文化		2		ドイツ語中級Ⅱ	2	いずれか1科目しか履修 できません。
		ドイツ語訳読法		2		ドイツ語リスニング演習Ⅰ	2	
速修ドイツ語		2	ドイツ語圏の言語と文化	2		いずれか1科目しか履修 できません。		
時事ドイツ語		2	ドイツ語読解演習Ⅰ	2				
ドイツ語会話演習		2	ドイツ語読解演習Ⅱ	2				
フランス語	入門フランス語	2	フランス語	入門ドイツ語		2		
	フランス語作文コース	2		ドイツ語表見演習Ⅱ		2		
	フランス語読解コース	2		ドイツ語オーラル演習Ⅰ		2		
	フランス語実用会話	2		ドイツ語リスニング演習Ⅱ	2			
中国語	速修中国語Ⅰ	2	中国語	入門フランス語	2			
	速修中国語Ⅱ	2		フランス語作文コース	2			
	中国語口語Ⅰ	2		フランス語読解コース	2			
	中国語口語Ⅱ	2		フランス語実用会話	2			
	中国語聴写Ⅰ	2		入門中国語Ⅰ	2			
ロシア語	速修ロシア語Ⅰ	2	ロシア語	入門中国語Ⅱ	2			
	速修ロシア語Ⅱ	2		中国語口語Ⅰ	2			
朝鮮語	速修朝鮮語	2	韓国語	中国語口語Ⅱ	2			
	朝鮮半島の言語と文化	2		中国語聞き取りⅠ	2			
スペイン語	速修スペイン語	2	スペイン語	入門ロシア語Ⅰ	2			
	スペイン語圏の言語と文化	2		入門ロシア語Ⅱ	2			
	表現スペイン語	2		入門韓国語	2			
	時事スペイン語	2		韓国の言語と文化	2			
インドネシア語	速修インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語	入門スペイン語	2			
	速修インドネシア語Ⅱ	2		スペイン語圏の言語と文化	2			
オランダ語	オランダ語基礎Ⅰ	2	オランダ語	表現スペイン語	2			
	オランダ語基礎Ⅱ	2		時事スペイン語	2			
エスペラント	エスペラントⅠ	2	エスペラント	入門インドネシア語Ⅰ	2			
	エスペラントⅡ	2		入門インドネシア語Ⅱ	2			
	速修エスペラント	2		速修オランダ語Ⅰ	2			
				速修オランダ語Ⅱ	2			
				速修エスペラントⅠ	2			
				速修エスペラントⅡ	2			
				速修エスペラントⅠ	2			

※1 言語文化科目Ⅱ「自然科学英語講読」、「人文科学英語講読」および「英語文学講読」は、言語文化自由選択科目の「英語リーディングⅡ」または「英語リーディングⅢ」を履修することによりいずれかに読み替えられます。いずれの科目に読み替えを希望するかを、事前に授業担当教員に申し出て承認を得てから、読み替えの手続きをしてください。

※2 言語文化科目Ⅱ「実用英語演習Ⅰ」および「実用英語演習Ⅱ」は、言語文化自由選択科目「英語テスト・テイキング」を履修することにより読み替えられます。原則として「実用英語演習Ⅰ」に読み替えますが、平成18年度までに「実用英語演習Ⅰ」を履修した者のみが、「実用英語演習Ⅱ」に読み替えることができます。

外国語コミュニケーション科目

外国語コミュニケーション科目は言語文化自由選択科目を修得することにより読み替えられます。

区分		未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数	
外国語コミュニケーション科目	英語	英語ディベートⅠ	2	言語文化自由選択科目	英語プレゼンテーションⅠ	2	
		英語ディベートⅡ	2		英語プレゼンテーションⅡ	2	
		英語スピーチⅠ	2		英語会話Ⅰ	2	
		英語スピーチⅡ	2		英語会話Ⅱ	2	
		英語リスニング・セミナーⅠ	2		英語リスニングⅠ	2	
		英語リスニング・セミナーⅡ	2		英語リスニングⅡ	2	
		英語ライティング・セミナーⅠ	2		英語ライティングⅠ	2	
		英語ライティング・セミナーⅡ	2		英語ライティングⅡ	2	
		英語リーディング・セミナーⅠ	2		英語リーディングⅠ	2	
		英語リーディング・セミナーⅡ	2		英語リーディングⅡ	2	
	英語翻訳法	2	英語リーディングⅢ		2		
	ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2		ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ	2
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	2			ドイツ語中級Ⅱ	2
		ドイツ語オーラル・セミナーⅠ	2			ドイツ語オーラル演習Ⅰ	2
		ドイツ語オーラル・セミナーⅡ	2			ドイツ語オーラル演習Ⅱ	2
		ドイツ語表現セミナーⅠ	2			ドイツ語表現演習Ⅰ	2
		ドイツ語表現セミナーⅡ	2			ドイツ語表現演習Ⅱ	2
		ドイツ語読解セミナーⅠ	2			ドイツ語読解演習Ⅰ	2
		ドイツ語読解セミナーⅡ	2			ドイツ語読解演習Ⅱ	2
		ドイツ語リスニング・セミナーⅠ	2			ドイツ語リスニング演習Ⅰ	2
ドイツ語リスニング・セミナーⅡ		2	ドイツ語リスニング演習Ⅱ	2			
	ドイツ語発音セミナー	2		ドイツ語発音演習	2		
	ドイツ語社会文化セミナー	2		ドイツ語圏の言語と文化	2		

健康・スポーツ科学科目Ⅱ

健康・スポーツ科学科目Ⅱは健康・スポーツ科学科目を修得することにより読み替えられます。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数
健康・スポーツ科学科目Ⅱ	生涯スポーツ実習Ⅰ	1	健康・スポーツ科学科目	身体運動科学実習Ⅲ	1
	生涯スポーツ実習Ⅱ	1		身体運動科学実習Ⅳ	1

情報処理科目Ⅱ

情報処理科目Ⅱは主題科目を修得することにより読み替えられます。

情報処理科目Ⅱについては、主題科目の副題が、科目名として成績に記載されます。ただし、既に修得した情報処理科目Ⅱと同一名称の副題の科目は履修することができませんので、注意してください。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	副題	単位数
情報処理科目Ⅱ	図形情報処理入門	2	主題科目	理系主題科目Ⅵ	図形情報処理入門	2

《 全学教育科目関連のWebページ 》

◆ 全学教育ホームページ

<http://rche.kyushu-u.ac.jp/>

◆ 電子掲示板〔休講・補講など〕

携帯電話 <http://zkinf.gened.kyushu-u.ac.jp/m/>

パソコン <http://zkinf.gened.kyushu-u.ac.jp/>



◆ シラバス

<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/>

◆ 学務情報システム（学生用Webシステム）〔履修登録・成績確認〕

<http://www.kyushu-u.ac.jp/student/education/rishu.php>

学 部	学 科	学 生 番 号	氏 名

平成24年度 全学教育科目 高年次履修のための手引き
作成：九州大学学務部全学教育課